

学校支援を積極的に進める

誰でも、無理なく参加できるPTA活動を目指して

大府市立共和西小学校PTA

1 はじめに

大府市は、名古屋市の南東に位置する、人口約9万3,000人の小都市である。市南部には、健康・医療・福祉・介護関連の施設が集中する健康都市であり、一方で市北部には、自動車関連工場が集中する工業都市でもある。

隣接する名古屋市のベッドタウンとして住宅地が整備され、近年人口増加の著しい地域である。本校も、平成21年度には306名、

13学級であった児童数が、令和6年度現在831名、32学級まで増加している。「明るく・すなおに・たくましく」の校訓の下、児童が学力（学ぶ力）と楽力（楽しむ力）を身に付けられるよう、家庭と学校、地域が連携し、教育活動を進めている。



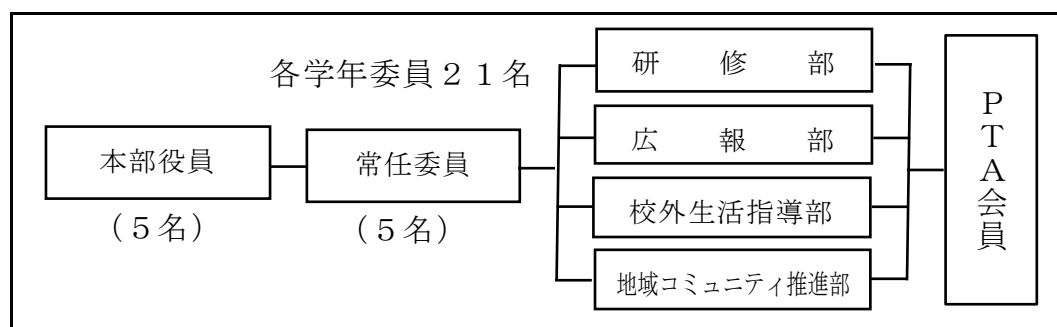
【共和西小学校校舎】

2 研究への取組

(1) PTA組織

本校PTAは、「家庭教育力の強化を図る」「学校支援を積極的に進める」「地域社会との緊密な連携を築く」を3つの大きな柱として、児童の明るく健やかな成長を支えることを目的としている。4つの専門部により構成されており、それぞれ次のような活動を行っている。

- ・ 研修部…教育講演会、給食試食会等研修会の計画と運営
- ・ 広報部…PTA新聞「たけのこ」の年2回発行
- ・ 校外生活指導部…交通安全陳情調査、通学路の安全点検
- ・ 地域コミュニティ推進部…夏まつり等、地域行事の支援



(2) 研究のねらい

昨年度より、考え方の多様化と生活様式の変化にあわせて、「誰でも、無理なく参加できるPTA活動」を合言葉に、大幅な組織の改編と活動内容の見直しを行った。今回の研究を通して、新しく再編された各部での活動とその成果をまとめ、振り返ることで、今後のPTA活動をより充実させたいと考えた。

3 実践活動の概要

(1) 子どもたちの健康と安全を支援する取組

① 校外生活指導部による通学路と集合場所の安全点検

本校には、29の通学団があり、133の通学班によって構成されている。校区は大変広く、新しく区画整理された地域、細い路地のある昔ながらの地域など、多岐にわたっている。そのため、各地域のPTA委員による協力体制が大変重要であり、各委員が定期的に通学路や集合場所の安全点検に取り組んでいる。さらに、「地域見守り隊」の方々と連携を密にすることで、子どもたちの安全を支えることにつながっている。



【登下校時の様子】

② 研修部による「給食試食会」の開催

コロナ禍により中断していた「給食試食会」を復活させた。市内の小中学校では、県内でもめずらしい

「自校式給食」を実施している。そのため、保護者の給食に対する関心はとても高く、多くの方々にご参加いただくことができた。試食会では、栄養教諭より、



【給食試食会の様子】

「学校給食と食育の大切さ」

についての講話があり、子どもたちの健康を支えるために、家庭でもできることを考えるよい機会となった。また、実際に子どもたちが給食を食べている様子を見学したり、同じ給食を試食したりすることによって、親子で共通の話題をもつことができ、親子の会話を広げることもつながった。

(2) 家庭の教育力向上を支援する取組

① 研修部による「教育講演会」の開催

本校PTAでは、毎年9月に行われる授業参観日にあわせて、家庭の教育力向上を支えるための「教育講演会」を開催している。今年度は、愛知県金融広報委員会より、金融広報アドバイザーの方を講師としてお招きし、「子どもに伝えたい！お金の価値、お金の使い方」と題してご講演をい



【教育講演会の様子】

ただいた。講演を通して、限られたお金のなかでやりくりをすることや、将来必要なことのために我慢して貯金をすることなど、子どもに「お金の使い方」を理解させることは、子どもの人生をよりいっそう豊かにすることにつながるのだと改めて認識できた。また、そのためには親自身の金融に対する知識がとても重要であり、子どもと一緒にお金について学んだり、実際に資産運用に取り組んだりして、知識を深めていくことが大切であると感じた。

② 地域コミュニティ推進部による家庭地域連携を支援する取組

地域コミュニティ推進部は、夏まつりや盆おどり、コミュニティ主催の運動会など、地域行事への親子での積極的な参加を促し、家庭と地域、そして学校との連携を支えることを目的としている。夏まつりや盆踊りでは、運営側の一員として、計画や準備の段階から積極的にコミュニティの



【共長夏まつりの様子】

方々と関わり、地域との連携を深めることができた。さらに、夏まつりや盆踊りに向けての、中学生による太鼓練習会を見守る活動や、当日のパトロール活動など、さまざまな取組を行っている。地域行事への親子での参加が活性化することは、子どもの地域を愛する心を育てることにつながり、保護者の地域に対する意識を向上させることにつながる。そのためには、地域での活動内容を精選し、スリム化を図っていくことも大切であるが、一方で地域の方々の声にしっかり耳を傾け、地域の方々と共に活動することも必要であると感じた。

(3) 家庭と学校、地域の連携を支援する取組

① 広報部によるPTA新聞「たけのこ」発行

本校では年に2回、PTA新聞「たけのこ」を発行している。第1号では、新1年生を特集するページ、学校の全ての職員を紹介するページ、春の運動会の様子を伝えるページなど、どのページにも工夫が凝らされた、魅力的な新聞を発行することができた。ポップな文字や美しい写真、楽し



【PTA新聞「たけのこ」】

い手書きのイラストで構成された紙面は、親だけでなく子どもの目も引き、親子で一緒に楽しむことができた。また、公民館や児童福祉センターなどの公共施設、コミュニティや民生児童委員など地域の方々にも広く配付することで、学校で活躍する子どもたちの姿を知っていただくよいきっかけとなった。第2号では、野外活動や修学旅行での様子、卒業に向けての特集が組まれる予定である。親と子、家庭と学校、地域と学校のつながりを支え、いっそう強いものにできるよう、前号以上に魅力的な紙面にしたいと考えている。

4 おわりに

今回の研究を通して、私たちが取り組んでいるPTA活動が、子どもたちの健康と安全、家庭の教育力向上、家庭と学校、地域の連携において、大変重要な役割を担っていることを改めて実感することができた。

昨年度より、「誰でも、無理なく参加できるPTA活動」を合言葉に、大幅な組織の改編と活動内容の見直しを行った。年度当初は、役員や委員の人数が減ったことによる各自の負担増が心配されていたが、活動内容を精選したことにより、「できる範囲で無理なく活動できた」といった声が多く聞かれた。また、定期的開催される役員・常任委員会では、各部における活動について、更なるスリム化、効率化を図るための前向きな意見交換がなされ、「昨年と同じ」ではなく「今年はどうする」といった意識で取り組んでいる。このように、従来の「ワク」が取り外されたことにより、今まで以上に自由に、多様な意見を述べることができる雰囲気が構築され、積極性が生まれた。このことから、PTA一人一人の意識を、「やらされている」ではなく、「やっている」に変化させることが、「無理なく参加できるPTA活動」を実現させる大きな鍵となると感じた。今後も、共和西小学校PTAスローガン「誰でも、無理なく参加できるPTA活動」の下、常に柔軟に変化し、進化し続けるPTA活動を目指していきたい。